

# 環境リサイクル肉牛協議会第9回総会

日時 2008年6月7日(土)10:40～

場所 帯広畜産大学 畜産フィールド科学センター 会議室

## 会議 次第

1. 開会挨拶
2. 議長選出・書記指名
3. 議事
  - 1) 第1号議案 2007年度事業報告及び収支決算に関する件
  - 2) 第2号議案 2008年度事業計画及び収支予算に関する件
  - 3) 第3号議案 役員選出
  - 4) その他
4. 閉会

## 2007年度事業報告

1. 会員(2007年度)

1) 生産者	8	
2) 流通業者	4	
3) 消費者団体	2	
4) 学研・指導機関	8	
5) 飼料流通	5	
合計	27名	前年度より1名増
2. 組織体制の整備と部門制の確立
  - (ア) 幹事を割り当てたが、部門制導入による役割分担は明確にならず。
    - 1) 総務部 会の運営 →事務局
    - 2) 生産部 生産情報収集・資料作成・e-び-ふ生産→畜産試験場
    - 3) アグリサイクル編集部 会の全体情宣活動→事務局
    - 4) 「e-び-ふ」認定委員会→畜産大学
  - (イ) NPO(特定非営利活動法人)2008年3月設立総会、4月(4/17)設立申請。
3. 機関誌の発行  
会報発行 機関誌「アグリサイクル」6号 10月発行。総ページ数 72ページ
4. インターネットホームページ開設 8月 <http://www.recycle-gyu.com>  
現在のアクセス件数を増大すべく、さらなる情報発信力強化が必要
5. 総会・幹事会の開催
  - 1) 総会 第8回総会 2007年6月30日(土)13:00～

場所 マルハ(株)北海道畜産営業所 会議室

2) 臨時総会 2008年3月1日(土)10:00-

場所 帯畜大 フィールド科学センター 会議室

「NPO 法人への移行・設立について」

3) 幹事会 計8回開催した。活動状況報告とシンポジウムの準備。

6. 2007年度レインボー・パル基金助成対象活動の取り組み

「農産加工副産物を利用した資源循環型牛肉生産の展開と普及活動

ー 生産者・消費者双方向への適正情報の提供に向けた調査研究ー」

1) 生産地・農家実態調査

2) 協議会ホームページの立ち上げ

3) 資源循環型牛肉生産シンポジウムの開催

「副産物と自給飼料を活用した牛肉生産体制の構築に向けて」

7. 「e-びーふ」認定事業の取り組み

自給飼料活用型モデル農家選定、認定作業に向けた事前調査を実施。

滝上町 池田牧場

8. 資源循環型食肉生産シンポジウム開催

・ 第4回資源循環型食肉生産シンポジウムー

・ テーマ : 副産物と自給飼料を活用した牛肉生産体制の構築に向けて

・ 11月5日(月)13:30~18:00 会場:JA 芽室町 大会議室

・ 主催/環境リサイクル肉牛協議会、共催/北海道アンガス牛振興協議会、パルシステム連合会、芽室町農協、北海道立畜産試験場、帯広畜産大学地域共同研究センター、十勝農協連、北海道酪畜協会

・ 参加者 150人

9. 比較食味テスト

e-びーふ牛肉と配合主体飼養牛肉との食味比較を総会・臨時総会およびシンポジウム開催と併せて実施。

10. その他の活動

(1) 6月30日(土) マルハ畜産シンポジウム 2007「飼料・畜産情勢のグローバル分析について」への協力。基調講演の一つを分担。

(2) 8月1日(水)-2日(木) レインボー・パル基金助成先視察団来訪、e-びーふ認証農家の視察と活動の概要・進捗状況を説明。

(3) 2008年1月17日(木) パルシステム生消協 第15回農法研究会において話題提供の一つを分担。

(4) 2008年3月28日(金) 日本産肉研究会において話題提供の一つを分担。

## 2007 年度収支決算報告

(別紙資料) 収支決算書・監査報告参照

## 2008 年度事業計画

### 1. 会員募集(2008 年度)

- 1) 生産農家
- 2) 流通業者
- 3) 消費者団体
- 4) 学術行政指導機関
- 5) 飼料流通

目標会員数 合計 30 名 普及活動を通じて、生産農家の会員増を図る。  
広範囲の理解者を参集する。

### 2. 組織体、役割分担の明確化と整備

#### (ア) 部門制の確立と幹事の割り当て

- 1) 総務部 会の運営 →事務局(法人化後の理事会組織体制の整備)
- 2) 生産部 生産情報収集・資料作成・e-び-ふ生産→畜産試験場
- 3) アグリサイクル編集部 会の全体情宣活動→事務局
- 4) 「e-び-ふ」認定委員会→畜産大学、道立畜産試験場

- ・ NPO(特定非営利活動法人)移行後の役員体制は理事5名、監事2名とする。
- ・ 北ア協との連繋の強化を図る。

### 3. 機関誌発行

- 1) 会報発行 年1回(機関誌「アグリサイクル」7号を発行する。
- 2) 幹事会報告 開催時毎に議事録を作成しメール等で報告する。
- 3) インターネットを利用し情報を公開、発信する体制の整備を図る。

### 4. 定期的総会と幹事会の随時開催

#### 1) 2008 年度第9回定期総会

NPO 法人化後第1回通常総会 2009/5or6

- 2) 幹事会(法人化後は理事会) 必要に応じ開催する。

協議会活動の進捗状況の報告と分析。

- 3) 「e-び-ふ」認証制度の活性化と申請に基づく認定委員会の開催。

### 5. 2008 年度レインボー・パール基金助成事業の取り組み

課題「北海道内産裁断型トウモロコシサイレージと副産物を活用した資源循環型

肉牛肥育技術の確立と普及マニュアル作成に向けた調査研究」

道立畜産試験場、畜産大学との共同研究を企画する。

### 5. 「e-び-ふ」認証事業の活性化を図る。

- 1) モデル農場の展示紹介、パネル設置等の啓蒙活動を推進する。
- 2) 自給飼料活用による飼料自給率目標30%以上達成の農家選定を推進する。

## 6. シンポジウム開催

NPO 法人設立記念シンポジウムという位置づけ

- 1) 2008年11月上旬開催予定 会場;帯広市周辺
- 2) ンガス牛枝肉協励会と同調して生産者の参加促進を図る。
- 3) テーマの考え方 : 自給飼料による牛肉生産体制の構築と副産物の飼料活用  
デントコーンラップサイレージの調製技術と肉牛肥育用飼料価値

6. 比較食味テスト。配合主体と副産物利用生産牛肉の比較。

7. NPO 法人化後の事業計画は別紙 事業計画書参照 内容は上記1-7と符合させてある。

## 2008 年度予算案

2008年7月に見込まれる NPO 法人移行時点までの収支決算残額を NPO 法人初年度の予算に組み入れて執行する。 別紙 NPO 法人予算書参照

## 役員選出

NPO 法人化までは全員留任

会 長	左 久	理事長	左 久
副会長	宮下 盛次	副理事長	嶋村 義文
事務局長	花房 俊一	理 事	花房 俊一
幹 事	成田 芳樹	理 事	成田 芳樹
幹 事	嶋村 義文	理 事	榛澤 保彦
幹 事	山本 伸司	監 事	日高 智
幹 事	宮崎 元	監 事	内藤 順介
幹 事	佐藤 幸信		
幹 事	山本 裕介		
監 事	榛澤 保彦		
監 事	内藤 順介		

## その他

以上。